

## 飛鳥資料館秋期特別展のご紹介

「重要文化財指定記念 奇偉荘厳 山田寺」  
平成19年10月19日(金)～11月25日(日)

現存する世界最古の木造建築、法隆寺西院伽藍をさかのぼる寺院建築が、倒壊したままの状態出土した…山田寺東面回廊の発掘に、世間の熱い視線が集まりました。1982年の冬のことです。

山田寺は、奈良県桜井市の西南部、明日香村との境近くに位置する寺院です。舒明13年(641)に蘇我倉山田石川麻呂の本願により造営がはじまり、石川麻呂の横死により一時中断した後、天武14年



東面回廊の発掘 山田寺第5次調査 1983年)

(685)に完成しました。

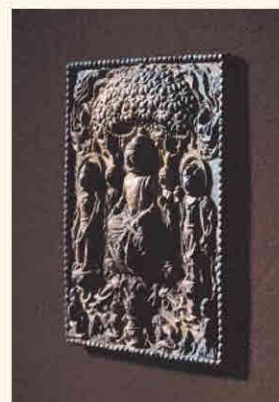
平安時代にはしばしば貴族が参拝し、治安3年(1023)に高野山参詣の途上、山田寺堂塔を拝した藤原道長は、「奇偉荘厳」=堂内の飾り付けがたいへん優れている、と感嘆しています。

発掘では、道長も拝したであろう、堂内に飾付けられていた<sup>せんぶつ</sup>博仏

や、堂塔の建築部材と瓦、宝蔵の寺宝、寺で用いられた土器や木簡なども出土しました。

今年、山田寺跡から出土したこれらの遺物が、古代寺院の様相を伝える稀有な一括資料として重要文化財に指定されました。今回の特別展では、通常非公開の木簡や大型部材などの貴重な資料を多数展示し、山田寺の魅力を紹介いたします。

(飛鳥資料館 西田 紀子)



鍍金銅板五尊像